

令和元年度事業計画

1. 第58回大会

会 期：令和元年6月6日（木）～8日（土）
会 場：沖縄コンベンションセンター
大会長：生田 幸士（東京大学）

2. 定時社員総会

令和元年6月7日（金）

3. 生体医工学シンポジウム2019

会 期：令和元年9月6日（金）、7日（土）
会 場：徳島大学 常三島キャンパス
組織委員長：安井武史（徳島大学）

4. 理事会

年6回（6月、8月、11月、1月、2月、3月）

5. 機関誌発行

- （1）生体医工学4回
- （2）Advanced Biomedical Engineering (ABE) volume 8

6. 令和元年度専門別研究会

	名 称	氏 名	回数
1	バイオメカニクス研究会	坂本 信	4
2	ニューロ・インフォマティクスにおけるME研究会	鈴木 隆文	3
3	次世代治療技術開発のための細胞組織・分子機能の計測・制御研究会	石原 美弥	3
4	BME on Dementia 研究会	志村 孚城	3
5	未来のバイオメディカルデザイン研究会	生田 幸士	4
6	医療機器に関するレギュラトリーサイエンス研究会	正宗 賢	2
7	ユビキタス情報メディアと医療システム研究会	保坂 良資	6
8	精神・睡眠医療とME研究会	植野 彰規	2
9	生体信号計測・解釈研究会	加納 慎一郎	2
10	育児工学未来研究会	小谷 博子	4
11	医療・福祉における電磁環境研究会	花田 英輔	4
12	バイオメディカル・ビッグデータ研究会	早野 順一郎	4
13	生体画像と医用人工知能研究会	原口 亮	5
14	実社会におけるマルチモーダル脳情報応用技術研究会	岩木 直	3
15	fNIRS(functional near-infrared spectroscopy)計測・解析技術研究会	江田 英雄	4

7. 他団体との共催の研究会

- ・ 次世代治療技術開発のための細胞組織・分子機能の計測・制御研究会（電気学会 バイオメディカル・オプティクス応用技術協同研究会との共催）
- ・ BME on Dementia 研究会（第20回日本早期認知症学会との共催）
- ・ ユビキタス情報メディアと医療システム研究会（日本医療情報学会看護学術大会にてOS, 日本医療情報学会学術大会にてシンポジウムもしくはワークショップ, 電気学会大会にて企画セッション）
- ・ バイオメディカル・ビッグデータ研究会（SICE ライフエンジニアリング部門シンポジウムにてOS, 情報処理学会 電子化知的財産・社会基盤研究会と共催）

8. 令和元年度支部長

支部名	支部長
北海道	清水 久恵
東北	芳賀 洋一
甲信越	堀 潤一
関東	佐久間一郎
東海	長谷川純一
北陸	鈴木 亮一
関西	大城 理
中国・四国	石原 謙
九州	伊良皆 啓治

9. 国際委員会

- 1) 日本医学物理学会との連携による World Congress の日本誘致への取り組み
日本医学物理学会との連携による2027年のWorld Congressの日本開催に向けて、双方の大会、第117回日本医学物理学会学術大会(4月11-14日 横浜) および第58回日本生体医工学会(6月6-8日 那覇)にて交流セッションを企画し、互いに具体的な取り組みの紹介と両学会の連携の重要性の周知を図る。
- 2) Asia Pacific Conference on Medical and Biological Engineering 2020 の準備
IFMBE Asia Pacific Group 主催の Asia Pacific Conference on Medical and Biological Engineering 2020 を2020年5月25日-27日、岡山にて開催される第59回日本生体医工学大会と併催するための準備を行う。

10. 編集委員会

- (1) 従来通りの論文出版に対する活動を継続する。
- (2) ABE のインパクトファクター取得を重点事項とし、引用数の増加と海外からの投稿数の増加を目指す。このため、主要国際学会での広報、掲載論文の広報、レビュー論文の投稿依頼、クラリベイト社との緊密な打ち合わせを実施する。
- (3) 生体医工学シンポジウム2019にあわせた論文の企画を例年通り進めることで、大学院生及び若手研究者に対する、特に英語での論文発表の活性化を図る。
- (4) 論文投稿に関する教育講演を生体医工学シンポジウム2019で実施する。

11. 教育委員会

サマースクール2019：過去3回の開催に引き続き、「ハッカソン形式」の第16回サマースクールを開催する。これまでと同形式によるスクール開催のノウハウを活用し、若手を中心とした実行委員会を中心に企画・運営を行う。スクール実施を通じて、若手研究者の活性化、若手研究者の学会内および学会を超えた医療関係者および工学者の交流の機会を提供し、人的ネットワーク形成の促進を目指す。

生体医工学辞典(ウェブ版)：2019年度内のウェブ発刊を目指して、生体医工学辞典(ウェブ版)の制作・執筆を進める。この制作・執筆は、ME教科書の執筆・発刊と連携しながら行うことで、本辞典の利便性と有効性の向上を目指す。

12. ME技術教育委員会

- (1) 第25回第1種ME技術実力検定試験

A) 受験希望者用講習会

- | | |
|-----------------------|---------------|
| ①東京会場(帝京平成大学) | 2019年4月7日(日) |
| ②大阪会場(新梅田研修センター) | 2019年4月7日(日) |
| ③札幌会場(札幌医学技術福祉歯科専門学校) | 2019年4月14日(日) |
| ④名古屋会場(ウィンク愛知) | 2019年4月14日(日) |
| ⑤福岡会場(福岡県中小企業振興センター) | 2019年4月21日(日) |

B) 試験

- | | |
|------|----------------|
| ①実施日 | 2019年6月23日(日) |
| ②会場 | |
| 札幌 | 札幌医学技術福祉歯科専門学校 |
| 東京 | 帝京平成大学 |
| 名古屋 | ウィンク愛知 |
| 大阪 | 新梅田研修センター |
| 福岡 | 代々木ゼミナール |

- (2) 第41回第2種ME技術実力検定試験
- ①実施日 2019年9月8日(日)
 - ②会場(予定)
 - 札幌：札幌医学技術福祉歯科専門学校
 - 仙台：東北工業大学
 - 東京：東京電機大学
 - 名古屋：名城大学
 - 金沢：北陸大学 *新設
 - 大阪：コングレコンベンションセンター
 - 岡山：川崎医療福祉大学
 - 福岡：九州産業大学
- (3) 第41回ME技術講習会(財団法人医療機器センターと共催)
- A) テーマ 医療機器安全基礎講習会
 - B) 実施場所および実施日(予定)
 - ①名古屋会場(名城大学)
2019年6月30日(日)
 - ②福岡会場(FFBホール)
2019年7月6日(土)
 - ③仙台会場(ハーネル仙台)
2019年7月7日(日)
 - ④沖縄会場(沖縄産業支援センター)
2019年7月20日(土)
 - ⑤広島会場(TKP ガーデンシティ広島駅前大橋)
2019年7月28日(日)
 - ⑥大阪会場(難波御堂筋ホール)
2019年8月17日(土)
 - ⑦東京会場(ベルサール新宿セントラルパーク)
2019年9月7日(土)
- (4) 主に第1種ME技術者を対象とするME塾の開催(現在休止中)
- 場所：ME技術教育委員会事務局会議室
 - 日程：各月1回(土曜日)

13. クリニカルエンジニアリング委員会

- (1) 実践ME技術講習会(臨床ME専門認定士認定更新講習会)の開催(日本医療機器学会と共催)
 - ・第20回講習会
 - (東京) 2019年7月下旬～8月上旬 東京大学
 - (大阪) 2019年10月27日(日) 予定 大阪ハイテクノロジー専門学校
- (2) 臨床ME専門認定士の認定及び認定更新

14. 広報委員会

H31年度は以下の活動を行う。

学会、及び、各支部のホームページの継続的なアップデートを行う。

大会・シンポジウム・サマースクール・秋季大会のアーカイブの作成を進める。

会員への情報提供の円滑化のため、グループウェアサービスの利用を検討・実施する。

15. ME研究推進委員会

- 1) 第58回沖繩大会におき、過去4年に渡る生体医工学科設立を加速するためのシンポジウムの発展形として日本の持ち味を活かした世界最先端の生体医工学科の具体的な講座構成、カリキュラム、単位数など本学会の立場で雛形を提案する。
- 2) 欧米では教授に定年が無いが、日本ではまだ元気で高い研究能力があるにもかかわらず研究できない。そこで、定年退職した教授、医学者をプールした「日本高等研究サイト」（仮称）を提案し、AMED や NEDO など各種競争的プロジェクトに応募できる仕組み作りを模索する。
- 3) 引き続き行政、立法へのアピールを行い、生体医工学科の新設と本分野への予算投入をめざす。
- 4) 青少年向けの医工学の入門書、パンフレットを作成し、市販、配付する。

16. ME教育WG

医学部学生用のテキストを作成するため、企画委員会を3回程度開催する。研究開発・学生教育での造詣と経験の多い大学・大学院の医学部・工学部教員ならびに出版社と検討を行い、テキストの内容と編集執筆担当を決定し、執筆を依頼する。

17. 生体医工学科活性化委員会

(1) 目的

既存生体医工学関連学科が連携して、社会一般の市民、国会議員、マスコミ、高校生などの青少年に対して、全国的規模で生体医工学の分野を紹介し、世界での隆盛の実情の啓発をはかり、新たな生体医工学科や学部の設置まで視野に入れる。

そのため現状を分析し、活性化の方策を企画して実施するために、本学会内の生体医工学の発展に関係する各委員会や諸先達からのご協力も得て、問題点の整理と対応策の優先順序を決定し、新たな対策も加えてこれらを推進する。

(2) 委員会

3回程度の委員会（大会期間中1回、他に東京都内などで2回程度）を開催する。

(3) 事業

- ・分野紹介の書籍や模擬授業による広報活動

平成26年4月に刊行した高校生や一般社会に生体医工学分野を紹介するための出版物「先端医療を支える工学- 生体医工学への誘い -」（コロナ社新コロナシリーズ）などを利用して生体医工学分野の広報活動を行うとともに、模擬授業等この分野を紹介できる企画を検討する。

- ・2019年度第58回日本生体医工学会での広報活動

OS「若手、学生に夢のあるMEとは？」に協力をして、生体医工学の広報を進めていく。生田幸士大会長の方針にも沿い、その他のセッションとも協力し、既存生体医工学科の拡充のみならず、新学部の必要性を広く広報・啓発する。

- ・就職先拡充のための活動

生体医工学分野の医療業界研究セミナーを複数個所で開催する。目的は、大学生に対して生体医工学関連企業を広報すると共に、企業に対して、この分野の知識を修得した学生の存在を広報することである。このため企業向けの新しいちらしの作成を検討する。

18. 利益相反委員会

- (1) 日本医学会COI管理ガイドラインを再調査する。
- (2) 日本医学会COI管理ガイドラインに基づいて策定された医学系学会のCOIガイドラインを調査する。他学会COI委員を講師に招き、講演および討論の機会をもつ。
- (3) 昨年度までに議論された日本医学会COI管理ガイドラインにおける問題点を再確認する。
- (4) 上記問題点を十分に考慮し、工学研究者の割合が多い本学会の実情に沿ったCOIガイドラインおよび細則を策定する。

19. 若手研究者活動WG

(1) 講演会事業主催・運営

学術大会への参加だけではなかなか進まない、生体医工学分野の若手研究者のネットワーキングに特化した機会をつくるため、各分野でご活躍中の講師による講演会と交流の場を構築する。

試行的に 2017 年度内に 2 回、2018 年度に 1 回、東京と大阪で実施した結果、20~30 名近い参加者を得た。

2019 年度では合計 4 回（関東 2 回、関西 2 回を予定）実施し、より多くの参加者や、交流、マッチングの機会を創出する。約 50 分の講演、約 30 分の質疑応答、その後約 2 時間程度での講師を中心とした交流を行う。

(2) ハッカソン型サマースクール主催・運営

生体医工学分野でテーマを決め、アイデアソンとものづくりを行う。医療現場に通じている医療従事者からの課題提起と、参加者の課題解決のためのアイデア出し、その後グループワークによるサービスや製品のコンセプト立案、プロトタイピング、発表、審査、表彰を行う。

生体医工学分野の研究者や学生が、医療従事者やビジネスパーソンなど多様な参加者と異分野交流を深め、共同して医療現場の課題を解決するコンセプト提案やサービスプロトタイピングを行うことで、課題解決型の思考力や実践力を養う。

2019 年度では立命館大学にてサマースクール、ハッカソンを開催予定である。

(3) YIA 事業主催・運営

医学系の若手研究者の学会参加増につながる取り組みとして、2018 年度に続き、2019 年 6 月 6-8 日、沖縄にて開催される第 58 回日本生体医工学学会大会における Young Investigator's Award (YIA) を企画した。

演題登録時に YIA 希望者はその旨チェックを入れて登録する。抄録および応募用紙を抄録選奨委員が点数化し、上位 6 名を選出する。

大会 2 日目の Award セッションにおいて、YIA 審査委員が発表内容に基づき医学系・工学系の各 1 名に最優秀賞を、両系の各 2 名に優秀賞を決定する。

YIA 選考は、工学系より 5 人、医学系より 5 人の選考委員によって、工学系 3 人・医学系 3 人の一次審査合格者を決定する。基本的に 1 つの工学系抄録は 3 名の工学系選考委員、1 つの医学系抄録は 3 名の医学系選考委員によって査読される。

(4) 若手のページ

若手のページを通じ、学会に所属する全ての若手研究者のネットワーキングならびに活性化を実現したいと考えている。

若手研究者が話を聞きたい方へのインタビュー記事、基本的な研究に関するミニ講座、若手からの提案・提言などの掲載を予定している。

20. 生体医工学シンポジウム WG

- 2019 年 9 月 6 日（金）、7 日（土）に徳島大学において開催される。
生体医工学シンポジウム 2019 の円滑な運営を行う。
- 生体医工学シンポジウム 2020 の開催地、組織委員長を選定する。
- 2021 年度以降のシンポジウムの開催地等の選考を始める。
- 生体医工学シンポジウム WG メンバーの若返りを図る。

2 1. 選挙管理委員会

選挙実施スケジュール

令和元年

- 8月 選挙管理委員決定、スケジュールの確認（第2回理事会）
- 1 1月中旬 代議員へ理事・監事選挙投票用紙発送
- 1 2月下旬 上記投票締切（必着を有効とする）

令和2年

- 1月上旬～中旬 開票（第1回選挙管理委員会）
理事・監事の双方に当選された代議員がいた場合には、
理事・監事の選択を確認
- 1月下旬～3月 選挙結果報告（第4回または第5回理事会）

なお、電子投票に向けたシステムの見積もりを行い、可能であれば電子投票を実施する

2 2. 選奨委員会

例年通り、論文賞・阪本賞、研究奨励賞・阿部賞、新技術開発賞、臨床応用研究賞・荻野賞の審査・選奨を行う。

大会、支部、専門別研究会などが選奨する「その他の賞」の申請を審査する。

2 3. 臨床研究法対応 WG

- (1) 「（仮称）臨床研究法への該当性判断にかんする生体医工学会のガイドライン」を作成する。
- (2) 「（仮称）臨床研究法のもとでの試作医療機器の適用に関する生体医工学会のガイドライン」を作成する。
- (3) 臨床研究法に関する議論の場を大会等で設け、広く学会内外からの意見集約を図る。

2 4. 臨床工学技士会連携 WG

臨床工学技士会では本学会と類似の分野を扱っているものの、アプローチの方法が異なることもあり、連携が不足している。

連携不足の改善が必要であることで両学会の認識は一致しているが、具体的にどのように連携を進めるか検討を要する。

そこで両学会の全国大会などの機会に、臨床工学技士会の役員などとの交流を深めつつ具体的にどのような連携が可能かを検討する。臨床工学技士会の IFMBE 加盟の支援も含んで検討する。